

令和元年度 第7回 学長選考会議議事要録

日 時：令和2年3月17日（火）開催扱いメール審議
回 答 者：小田部委員、小野寺委員、川上委員、種田委員、藤川委員、三浦委員、
内田委員、荒川委員、田内委員、増澤委員、戸嶋委員、栗原委員

議 題

審議事項

- 1 学長選考における今後の課題・意見等について
- 2 学長の業績評価に関する規則の見直しについて

議 事 概 要

I 審議事項

- 1 学長選考における今後の課題・意見等について

議長から、学長選考における今後の課題・意見等について審議願いたい旨の提案があり、審議の結果、文言を一部修正のうえ承認し、次期以降の学長選考会議への申し送り事項とした。

【主な意見】

- 「1. 意向聴取の不在者投票について」、不在者投票期間の拡大は賛成だが、投票箱に投票する際に立会人のいない投票は問題があると考ええる。
- 「4. 意向聴取の対象者について」、対象者拡大の要望は書類として保存しておくべきであったと考ええる。
- 「4. 意向聴取の対象者について」、対象者拡大を要望する理由を調査すべきと考ええる。
- 意向聴取投票の開票の際、部局ごとの集計が必要なのかを検討してほしい。

- 2 学長の業績評価に関する規則の見直しについて

議長から、学長の業績評価に関する規則の見直しについて、継続審議を前提とし、今回の意見を踏まえたうえで次期の学長選考会議で結論を出してもらいたい旨の提案があり、各委員への意見聴取が行われた。

【主な意見】

- 「学長就任1年目（再任時を除く）を除く」という考えで良いと思う。ただし、新学長が関与していない前学長の中期計画に疑問を感じたとき、中期計画を必要に応じて見直すルールは必要であると考ええる。
- 「毎年度1回実施するというのを変更、学長就任1年目（再任時を除く）」とした場合に、最終年度については評価はしないということになるとすれば、それでよいのかという疑問はある。

- 「学長就任1年目（再任時を除く）を除く」とし、実施を就任2年目以降の毎年とすることには賛成する。ただし、基本的に評価対象期間をあまり曖昧にすべきではないと考えるので、例1にある文面で良いと考える。
- 「学長就任1年目（再任時を除く）を除き、原則毎年行う」には賛成。中間評価と最終評価の2年ごとでは間隔が長く、最終年度のみを前年度と今年度の半期分とするのも間延びしていると考え。最終年度も何らかの評価は必要だと考えるので、12月～3月に最終年度分を行うのが良いと考える。
- 2年目を中間評価、その後の1.5年を評価+展望で良いのではないかと考える。
- 例2（「学長就任1年目（再任時を除く）を除き、規則上の評価実施時期等を明確にしない」）で良いと考える。